

若原亮太が2戦連続V！イーグルフィニッシュで激闘に終止符

通算14アンダーの首位タイからスタートした若原亮太が、4アンダー68でラウンド。最終ホールまで誰が勝つかわからない展開の中、18番ホールでイーグルを奪取。混戦に終止符を打った。

「今日は最後まで周囲のスコアを全く見ずにプレーしていました。なかなか伸ばせない感じだったので、トップは抜かれているかなと思っていました。17番ホールでスコアを確認したら同じ最終組でラウンドしていた鈴木選手と並んでトップだったので、それで最後は（鈴木選手と）恨みっこなしでやりましようと言いながらプレーしたらイーグルが来ました」。



若原が放ったセカンドショットは1メートルちょっとに付くスーパーショット。ただ、実はミスショットだった。

「残りは250ヤードくらいで、最初はクリークを持っていたんですが風がわからなくて。それで3番ウッドに持ち変えたんです。ピンが手前気味で、今の自分の技術だと手前に外してアプローチをするよりも奥からの方がバーディを取れるかなと思って。そうしたら左に引っ掛けてしまって。結果、右にキックしてピンに寄ってくれたんで、本当にラッキーでした」。

運も実力の内だと言われるが、それを引き寄せたのは紛れもなく若原の実力だ。若原のウィークポイントはショートゲーム。その強化をしながらシーズンを戦っているが、弱みをしっかり理解しているからこそ3番ウッドに持ち変えるという判断が冷静にできたわけだ。

今日は3日間の中で最もショットが乱れて苦しい内容のゴルフだったと言うが、それでも悪いなりに対処できた部分に成長を感じる。

8番ホールでは今週初めてのボギーがきて、心理的には嫌な流れになりかけた場面があった。ただ、続く9番ホールでティショットを右の池サイドぎりぎりに運び、セカンドはベタピン。パンスバックで流れを引き戻せたのが大きかったと振り返る。



1勝目の『住地ゴルフチャレンジトーナメント』の時は最終組の一つ前の組から追いかけるパターン。逆転での優勝だった。今回は最終組で明確に勝つことを意識した上での優勝だった。また、今年の5月の『JAPAN PLAYERS CHAMPIONSHIP in FUKUI』では最終組でプレーしながら勝ち切れなかった苦い思い出があっただけに、色んな意味で成長を自ら証明する今シーズン2勝目となった。

これでシーズン3勝目に王手がかかった。3勝目を達成すれば久常涼以来のことで、その時点でレギュラーツアーへの昇格が決まる。ただ、若原自身は特別意識することはないときっぱり。1勝目の時にも話していたように、今回優勝したからといって、試合にのぞむ姿勢は変わらない。それよりも今の若原は1試合でも多く優勝争いに加わり、1試合でも多く最終組でプレーすることを欲している。それこそが自分自身を成長させる最高の要素だと実感しているからだ。貪欲に自らの成長を求め続ける若原の残りシーズンの戦いぶり、そしてこの優勝で手に入れたダンロップフェニックストーナメントでの戦いぶりに注目したい。



Round3 updated 08/30 14:51		Score	Today	Hole	R1	R2	R3	Total	Points/Money
1	  若原 亮太	-18	-4	FIN	64	66	68	198	¥2,700,000
2T	  羅 学文(ルオ シュエウェン)	-16	-6	FIN	66	68	66	200	¥1,162,500
2T	  @吉行 アムロ	-16	-4	FIN	65	67	68	200	¥0
2T	  鈴木 海斗	-16	-3	FIN	67	64	69	200	¥1,162,500
5	  吉本 翔雄	-15	-1	FIN	64	66	71	201	¥780,000

高校1年生が堂々の優勝争い！@吉行アムロさんが首位と2打差の4位タイ

首位と1打差の3位タイからスタートしたアマチュアの吉行アムロさんが、この日もスコアを5つ伸ばして通算12アンダーの4位タイで明日の最終日を迎える。

「今日は昨日よりも緊張しまくりでした。でもめちゃくちゃ楽しめました」。

今週が優勝争いをしているからではなく、普段のジュニアの試合でも緊張はするタイプとのこと。ただ、その緊張感が今週はいい方向に働いている。初日に好スタートを切れたことで、スコアを落としたいと慎重にプレー。その上で訪れたチャンスをきっちり決め切ると言うまるでトッププロのようなゲーム運びができています。

「明日は優勝する可能性はゼロではないと思うので、今日みたいに伸ばせるといいかなと思います」。

緊張感の中でも自分のプレーができたのは同組のプロ達の励ましもあったと振り返る。その一人がハン・リーだ。ハン・リーは2日間通算2オーバーで予選落ちとなったが、息子のように歳の離れたチャレンジャーを最後まで励ました。

@吉行アムロさんがローアマ獲得！最後まで立派に優勝争い

トップとは2打差。最終組の一つ前でプレーしたアマチュアの吉行アムロさんが、プロの舞台で全く臆することなく最後まで戦い切った。

「緊張はしていたと思いますが、緊張していないような気持ちでプレーできたと思います」。

優勝を狙える位置での最終日。仲間からも多くのメッセージが送られていた。もしかしたら本人よりも周囲の人間が冷静でなかったのかもしれない。

そんな状況の中で最後まで崩れることなく回り切れた要因は、スコアのことを気にすることなく最後まで自分のゴルフにだけ集中できたからと振り返る。

初日より2日目、2日目よりも最終日と実際は緊張感は増していたはずだが、その中でスコアを落とさず、むしろ伸ばし続けられたことは何よりの自信になったに違いない。

この日の吉行さんは4バーディ、ノーボギーの68という素晴らしい内容。優勝争いの中でボギーを叩かなかったことに加えて、最終ホールのバーディはその時点でトップタイに並んでホールアウトする価値あるバーディだった。結果的には最終組の若原亮太がイーグルを奪ったことで2打差の2位タイに終わったが、十分過ぎる戦いぶりに多くの人を興奮させたことは間違いない。

ローアマの資格で出場できることになった11月のダンロップフェニックストーナメントでは、もちろん通用しないことは百も承知の上で、予選通過を目標に大舞台に挑む。活躍に期待したい。



今回も多くのアマチュアゴルファーが参戦している。

注目は東京ゴルフ倶楽部で先週行われた日本ジュニゴルフ選手権（12歳～14歳の部）を制した@高浦維吹さん。ツアーは今回が初出場で、プロの中でどれだけできるかが楽しみにしている。もちろん目指すは『ダンロップフェニックストーナメント』に出場できるローアマ獲得だ。

中学生生活最後の夏に集大成として挑んだ日本ジュニアで初の日本タイトルを手にした@高浦維吹さんがもう一つ大きな夏の思い出を作るために明日からの戦いに挑む。

他にも注目のアマチュアが出場している。

先週の日本ジュニゴルフ選手権（15歳～17歳の部）で大会連覇を目指し6位タイに終わった@西山陽斗さんは、連覇は逃したものの調子は悪くない。思い切って攻め切れるアマチュアの強みを発揮して、こちらもローアマを狙う。

また、日本ジュニゴルフ選手権（15歳～17歳の部）では思うようなプレーができなかった@今田一輝さんは、その悔しさを今週晴らすつもりだ。日本ジュニゴルフ選手権（15歳～17歳の部）では19位タイだった@吉行アムロさんはまずは予選突破を狙っており、プロの試合は今回が初めてという@堤野洋介さんも予選通過を目指す。

プロの世界を目指す若き選手たちに注目ください。



～スナッグゴルフからゴルフへ～笠間市出身・出口千加志さんがACNツアー初挑戦（8月27日）

BMW日本ゴルフツアー選手権森ビルカップでは、特別協賛社の森ビル、その舞台である穴戸ヒルズカントリークラブ、地元自治体の笠間市、そして日本ゴルフツアー機構による、スナッグゴルフを活用したゴルフの普及活動が2003年から開始され、市内11小学校全校がその活動に取り組み、現在では市内公立中学校にゴルフ部も創設されている。



このような活動から誕生したプロゴルファーも多く、笠間市からは、星野陸也や畑岡奈紗、金澤志奈や佐久間綾女などを輩出しているほか、その予備軍となる高校・中学のジュニアゴルファーも着々と育っている。

その中でも、18才の出口千加志さんは、先の日本アマチュアゴルフ選手権で初出場ながら27位と健闘、高校時代は水戸啓明ゴルフ部でも活躍してきた。

今年7月からは住友ゴム工業から用具サポートを受けるようになり、その縁あって初のACNツアーへの挑戦の機会を得て、「ダンロップフェニックストーナメントチャレンジinふくしま」に出場することとなった。

大会開催の舞台である、グランディ那須白河ゴルフクラブも笠間市同様に、2014年から西郷村と日本ゴルフツアー機構、そして住友ゴム工業と連携したゴルフの普及活動が進められており、村内の小学校5校全校がスナッグゴルフを導入し、「西の郷スポーツクラブ」がその活動を支え、今では中学生と高校生のゴルフ練習にも拡大している。

「ダンロップフェニックストーナメントチャレンジinふくしま」を主催する住友ゴム工業は、ドライバーやアイアンはもちろん、練習ボールやティーマット、そしてキャップやグローブなども定期的に子どもたちに提供しており、更には室内練習場のネットの敷設まで、手厚いサポートが行われている。

そんな環境から育ってきた選手の、西郷村での活躍が注目されるが、大会への意気込みについて出口さんは、「ツアー観戦にも来ていたこの地に、選手として戻って来ることができ嬉しく思います。これまで積み重ねてきた経験やスキルを存分に発揮したいと思います。」と、ポジティブにコメントした。

キッズエスコートとスナッグゴルフ親子大会を開催（8月30日）



福島県西郷村にあるNPO法人西の郷スポーツクラブでスナッグゴルフを楽しんでいる小学生とその卒業生、24名がトーナメント最終日に1番ティでスタートしていくツアープレーヤーたちを見送る「キッズエスコート」に挑戦した。

ティーグラウンド入場前にキッズ達は担当する選手への挨拶から始まり、選手から大会記念キャップにサインをもらい、記念撮影、ティーグラウンドに入場した後はロープ内でプロの豪快なティーショットを見学、プロとつかの間のふれあいを体験した後はロープ内トーナメント観戦を行い、ゴルファーのプレーを間近で見学、ショットの音や飛距離に驚いていた。





会場であるアカデミーコースは想像力をかきたてられるアンジュレーションがあり、苦戦するペアが多い中、イーグルやホールインワンも飛び出して、ペアでハイタッチを交わすシーンも沢山見られ、親子のみならず祖父母との3世代に渡るスキンシップもありと、ゴルフの魅力を改めて感じさせられるホッとした大会となった。

優勝は27ストロークで2位に2打差をつけて、江上颯ペア（熊倉小学校）が優勝者となり、優勝カップを受け取った。



ダンロップの住友ゴム工業株式会社が福島県でのゴルフの普及や地域の活性化を目的として、総合型地域スポーツクラブであるNPO法人西の郷スポーツクラブと協力、スナッグゴルフだけではなく、本物のゴルフへステップする為に「中学生ゴルフ」を開設に協力するなど、トーナメント開催コースの地元に貢献している。

又、キッズエスコートに参加したキッズには大会記念キャップとゴルフボールがプレゼントされ、キャップにはキッズエスコートを担当した選手から直筆のサインをもらっていた。



西郷村では、7月にはJGTOキッズゴルフ応援プロジェクト・リシャルミルジャパン財団・第22回スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会in西郷村が開催されるなど、スナッグゴルフ活動は増々盛んになっており、その全国大会では「NPO法人西の郷スポーツクラブ」が中心となり、80名近いボランティアを集め、運営に協力してもらっている。

又、NPO法人西の郷スポーツクラブは村内小学校5校全校を繋いだ取り組みに加え、今回のようなスナッグゴルフ親子大会を年2回開催したり、西郷村だけではなく、白河市等近隣の小学校へ赴きスナッグゴルフ体験会を行ったり、西郷村内中学校での部活動の地域移行の受け皿となるなど、地域の子ども達の活動を応援している。

また、環境にも恵まれ、グランディ那須白河ゴルフクラブの練習場やアカデミーコース(3ホール)を拠点に、雨の日には、ゲートボール場を改装した室内練習場も整えられて、温かみのある「人」が「子どもたち」の「ゴルフ」を支えている。

